

21世紀の“とちぎ”づくりに関する**若者意向調査**

**(高校生アンケート)**の概要

平成16年8月

栃木県企画部

○目次

★ 調査の概要

1. “とちぎ”の現状評価（どのように感じているか）
2. 将来居留意向（将来も“とちぎ”に住みたいか）
3. “とちぎ”の特色（他県に誇れるもの、魅力あるもの、自慢したいもの）
4. これからの望ましい「“とちぎ”の姿」
5. よりよい“とちぎ”づくりに向けた参加意向

★ 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、「新しい総合計画」策定にあたり、その参考とするため、県内の高校生の意向を調査したものである。

(2) 調査項目

- 問1 “とちぎ”の現状評価（どのように感じているか）  
問2 将来居留意向（将来も“とちぎ”に住みたいか）  
問3 “とちぎ”の特色（他県に誇れるもの、魅力あるもの、自慢したいもの）  
問4 これからの望ましい「“とちぎ”の姿」  
問5 よりよい“とちぎ”づくりに向けた参加意向

なお、問4と問5は、本年2月に実施した県民意向調査（5,000人対象）と同じ項目である。

(3) 調査の実施方法

対象者は、県内の高校（県立・私立を含む。）に在籍する2年生とし、学科や地域に配慮して26校（クラス単位で概ね1,000名を目標）を抽出し、各学校の協力を得て、平成16年7月に実施した。26校からの回収数は1,051票であった。

回答者内訳		[男女別構成]	
(総回答数)	1,051人	男性	484人 (46.0%)
		女性	561人 (53.4%)
		無回答	6人 (0.6%)

実施時期：平成16年7月

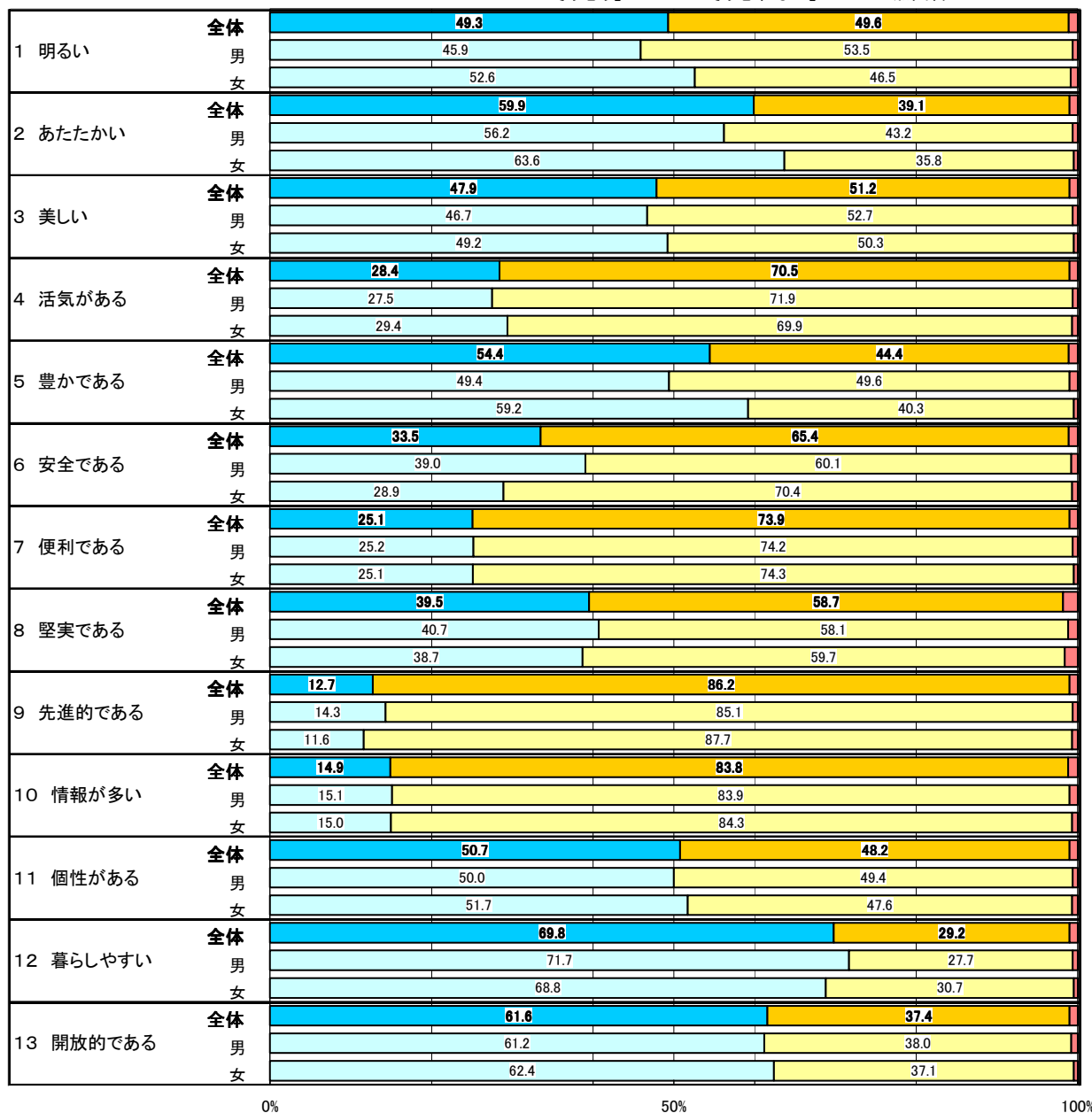
# 1. あなたは、いまの“とちぎ”をどのように感じていますか

(設問順、「そう思う」、「そう思わない」いずれか選択)

■「そう思う」

■「そう思わない」

■無回答

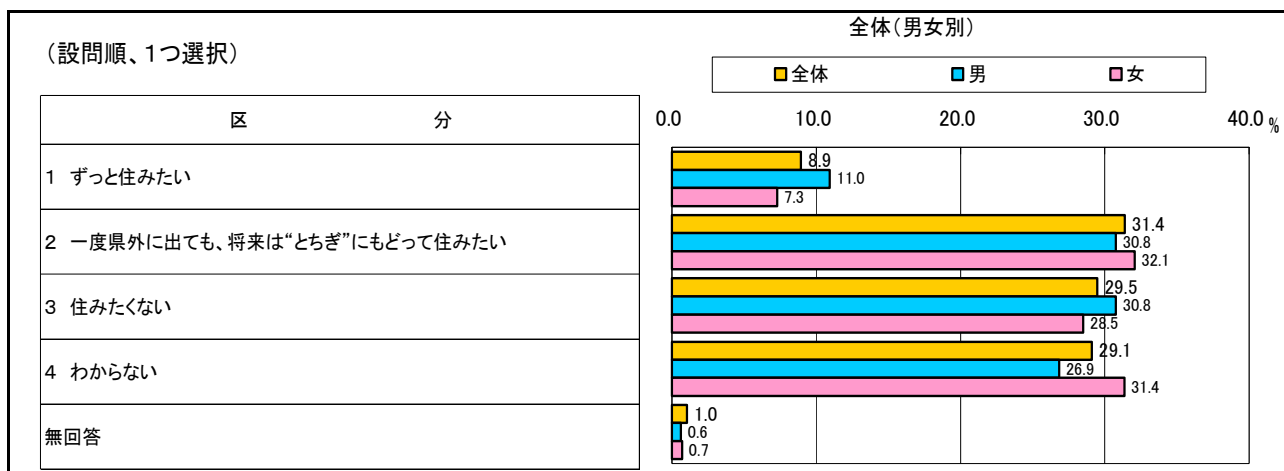


「明るい」、「あたたかい」など、13のイメージについて“とちぎ”を評価してもらったところ、「そう思う」が過半数を超える項目では「暮らしやすい」(69.8%)、「開放的である」(61.6%)、「あたたかい」(59.9%)が上位にあがっている。

一方、「そう思わない」が過半数を超える項目は7項目で、特に「先進的である」(86.2%)、「情報が多い」(83.8%)、「便利である」(73.9%)、「活気がある」(70.5%)について否定的であった。

男女別で見ると、全般的に女性の方が“とちぎ”の現状に肯定的であることがうかがえる。

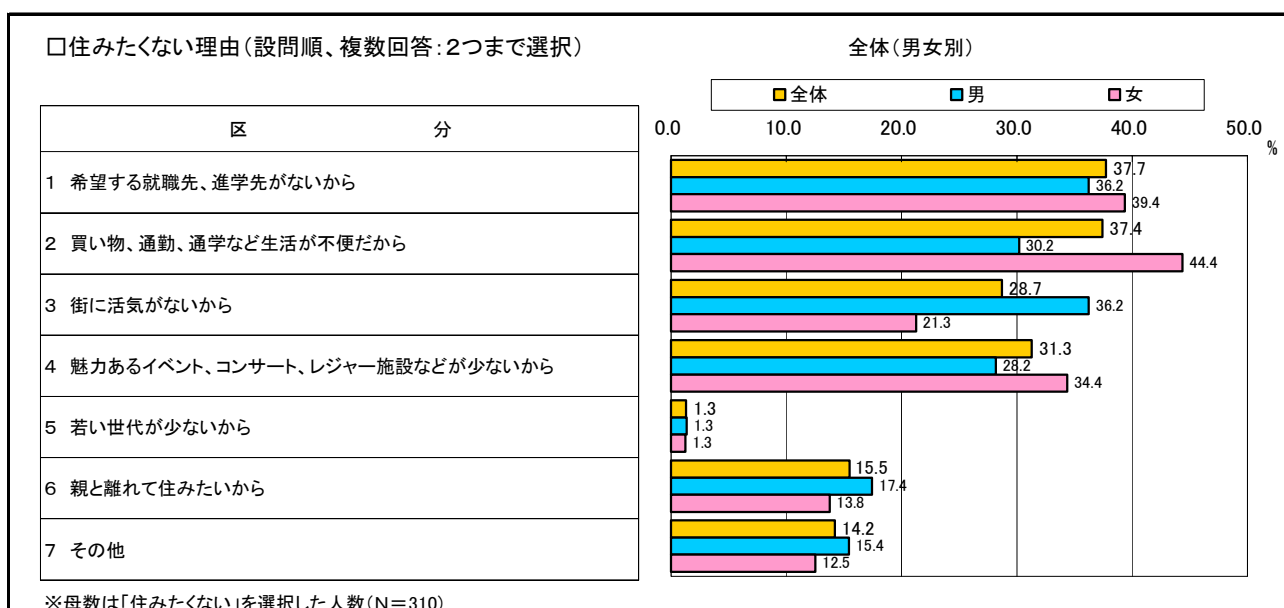
## 2. あなたは、将来も“とちぎ”に住みたいと思いますか



全体で見ると「2. 一度県外に出ても、将来は“とちぎ”にもどって住みたい」を選択した割合が31.4%と最も多く、次いで「3. 住みたくない」(29.5%)、「4. わからない」(29.1%)となっており、「1. ずっと住みたい」は8.9%と最も少なかった。

また、“とちぎ”に住みたくないと回答した理由について聞いたところ、全体では「1. 希望する就職先、進学先がないから」が37.7%と最も多く、次いで「2. 買い物、通勤、通学など生活が不便だから」(37.4%)、「4. 魅力あるイベント、コンサート、レジャー施設などが少ないから」(31.3%)となっている。

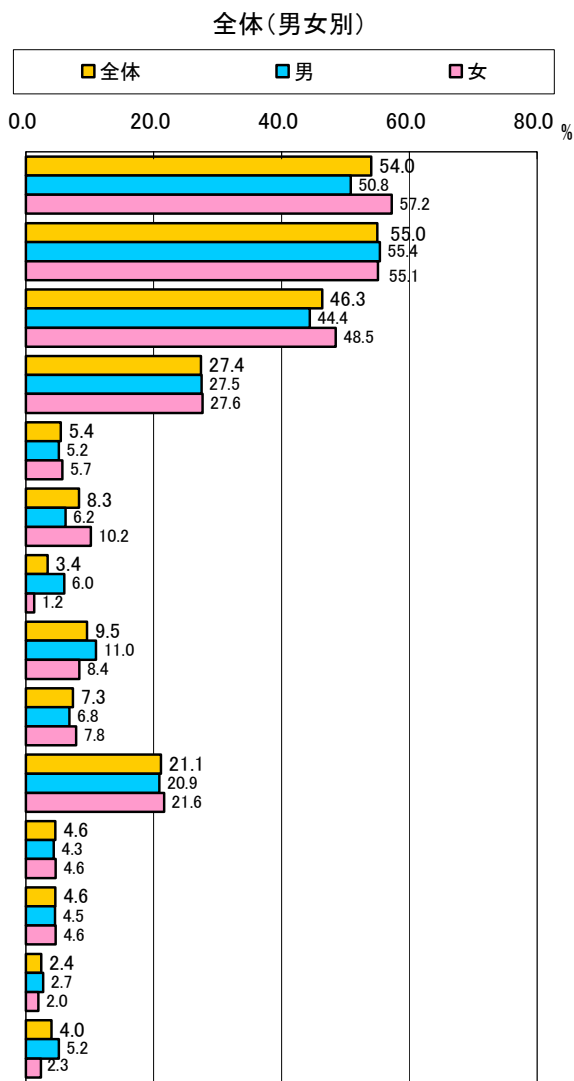
男女別では、「3. 街に活気がないから」を選択した男性が36.2%と女性の21.3%を大きく上回っている。一方、「2. 買い物、通勤、通学など生活が不便だから」を選択した女性が44.4%と男性の30.2%を大きく上回った。



3. “とちぎ”の誇れるもの、あるいは、魅力あるものとして、あなたが他県の人に自慢したいものは何ですか

(設問順、複数回答:3つまで選択)

区 分
1 水辺や里山、田園など豊かな自然が身近にあること
2 そばやラーメン、ぎょうざ、いちごなど各地に美味しい食べ物があること
3 日光の二社一寺や足利学校など各地に歴史的な名所・旧跡があること
4 豊富な温泉
5 様々なレジャー・観光施設
6 織物や和紙、工芸品などの伝統技術
7 自動車や家電、食品などの工業生産が盛んなこと
8 米や麦、牛乳などの農産物の生産が盛んなこと
9 東京とのアクセスが良いこと
10 災害が少なく安全なこと
11 人情味があり誠実で勤勉な県民性
12 本県にゆかりのある著名人
13 その他
無回答

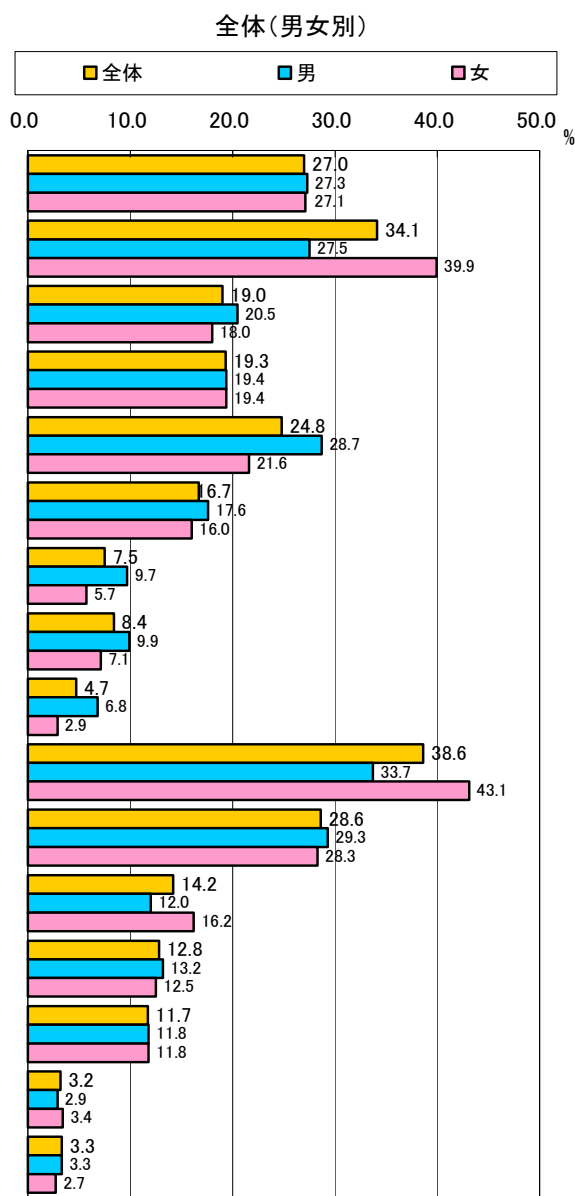


全体では「2. そばやラーメン、ぎょうざ、いちごなど各地に美味しい食べ物があること」が55.0%と最も多く、次いで「1. 水辺や里山、田園など豊かな自然が身近にあること」(54.0%)、「3. 日光の二社一寺や足利学校など各地に歴史的な名所・旧跡があること」(46.3%)となっている。

4. あなたやあなたのまわりの人々にとって、これからの“とちぎ”がどのような地域であつたら良いと思いますか。

(設問順、複数回答:3つまで選択)

区 分
1 安心して子供を産み育てていくことができる地域
2 お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域
3 地域社会の人々みんなが助け合っている地域
4 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われる地域
5 勉強や研究、スポーツや文化、芸術活動などが活発な地域
6 ライフスタイルに応じていろいろな働き方ができる地域
7 新しい事業にチャレンジできる産業活動が活発な地域
8 いろいろな農産物をうみ、豊かな森がいきづく農林業の盛んな地域
9 ものづくりが自慢できる工業の盛んな地域
10 買い物や娯楽サービスなどが楽しめるにぎわいのある地域
11 森や川や身近な環境を大切にする地域
12 どの“まち”や“むら”も美しく感じの良い地域
13 歴史や文化、伝統が感じられる地域
14 道路や公園、美術館や博物館などが整備された地域
15 その他
無回答

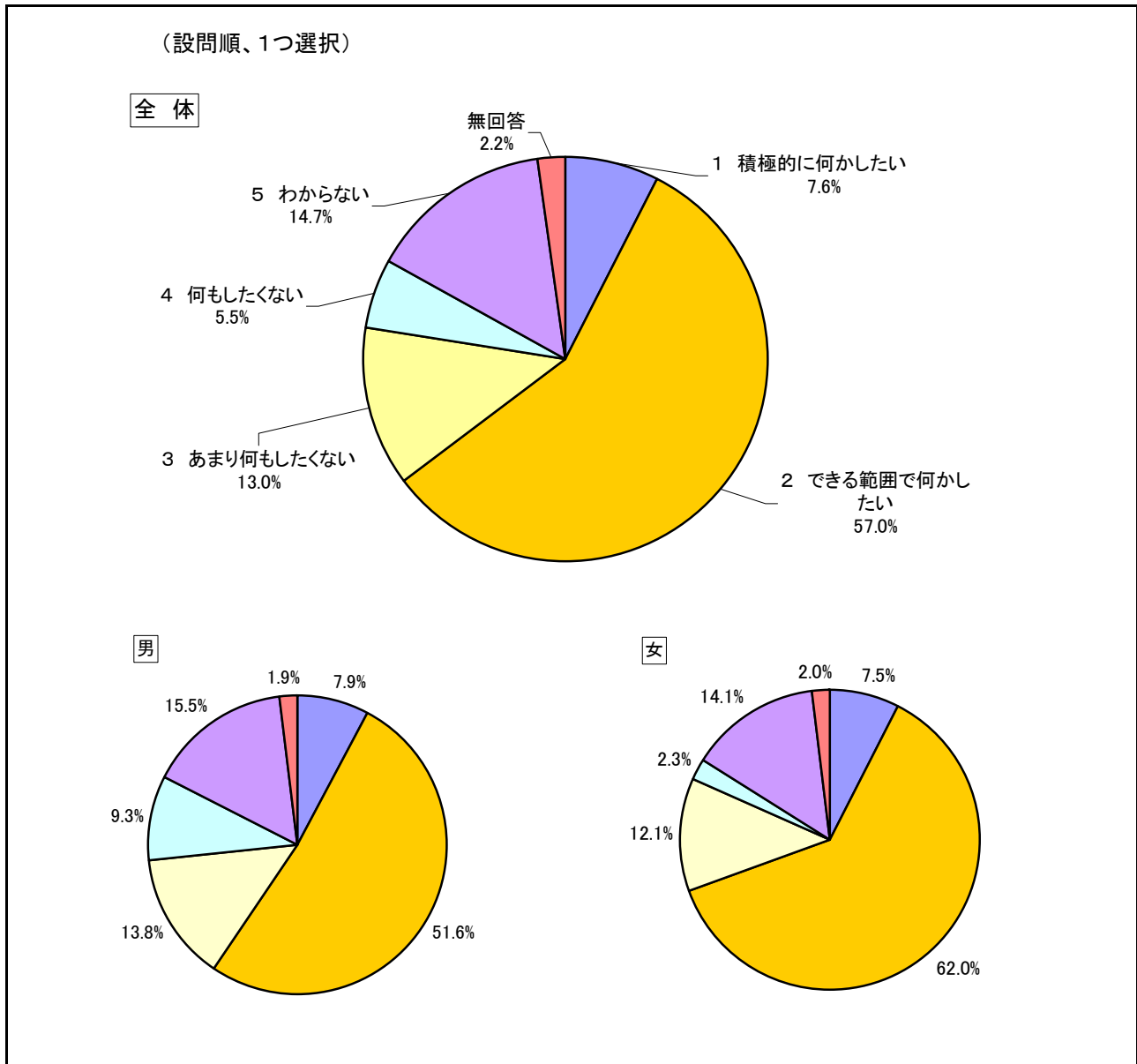


全体では、「10. 買い物や娯楽サービスなどが楽しめるにぎわいのある地域」が 38.6%と最も多く、次いで「2. お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」(34.1%)、「11. 森や川や身近な環境を大切にする地域」(28.6%)となっている。

男女別では、「2. お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」を選択した女性が 39.9%と男性の 27.5%を大きく上回っており、「10. 買い物や娯楽サービスなどが楽しめるにぎわいのある地域」においても 10%近い開きがある。一方、「5. 勉強や研究、スポーツや文化、芸術活動などが活発な地域」を選択した男性が 28.7%と女性の 21.6%を上回っている。

5. 魅力ある“とちぎ”をつくっていくためには、行政（県や市町村）だけでなく、これからは、若者の皆さんの果たす役割も大きくなると考えてます。

魅力ある“とちぎ”づくりのために、あなたは今後どのように行動していきたいと考えていますか。



全体では、「2. できる範囲で何かしたい」が 57.0%と最も多く、次いで「5. わからない」(14.7%)、「3. あまり何もしたくない」(13.0%)となっている。「積極的に何かしたい」あるいは「できる範囲で何かしたい」を選択した、参加意向を有している者の割合は 64.6%となっている。

男女別では、「2. できる範囲で何かしたい」を選択した女性が 62.0%と男性の 51.7%を大きく上回っており、男性に比べ女性の参加意向の高さがうかがえる。